

霊友会



- 宮中三殿 2.39km - 霊友会釈迦殿 - 高松宮邸 2.39km
- - 真如苑東京本部 2.39km
- - 伊藤忠商事 2.39km
- - 東宮御所 2.39km
- - 迎賓館 2.39km
- - 時事通信社 2.39km

霊友会釈迦堂

法華系の新宗教である。国内信者数は、1,340,703人とされている。

1920年（大正9年）創立者の久保角太郎は西田無学の思想と行法を知り、それをきっかけとして本格的な法華経研究と在家による実践方法の模索に入る。

1924年 若月チセラと第一次「霊友会（南千住霊友会）」結成するが、若月らに菩薩行としての趣旨が理解されず、その後袂を分かち。

1927年 兄夫婦の小谷安吉・小谷喜美らとともに「赤坂霊友会」として活動を開始。

1930年 小谷喜美を名誉会長とし、貴族院議員・永山武敏男爵を会長に迎え久保を理事長として「霊友会」として発会式を行う。永山は三ヶ月で辞任し、小谷喜美が会長に復帰する。「在家による法華経の菩薩行を実践する団体」として発展。

1936年 九条日浄を総裁に迎える。弾圧への配慮のためである。

1944年 久保角太郎他界。その後、小谷喜美を中心に戦後大きく教勢を伸ばしていくが、多くの分派を生むに至る。

1949年 教団本部がGHQの捜索を受け、金塊とコカインが押収される。翌年には小谷喜美が脱税の容疑で捜査を受け、麻薬所持で摘発。この後普明会教団と妙智会教団、佛所護念会教団が分派していく。

1952年 宗教法人法による宗教法人となる。

1953年 小谷喜美が赤い羽根共同募金 110 万円の横領、闇ドル入手、贈賄などの容疑で検挙。顧問弁護士木村篤太郎らの尽力で釈放。この闇ドル入手には、聖イグナチオ教会会計係の神父が関係していた。

1971年 2月小谷喜美死去後、久保角太郎の子息である久保継成が会長に就任。「インナートリップ」を提唱し若者をターゲットとした布教方針を掲げた。

1993年久保継成は集団合議制を確立する為に会長職を辞任、理事長に就任。

1993年 霊友会本部釈迦殿(東京都港区麻布台)で行われている月例行事「在家のつどい」に久保継成が登壇。久保継成は自身が会長職に復帰する旨の宣言を一方的に発表する。これにより、久保継成、及び、久保が会長職への復帰を支持する幹部・役員・会員と、その他の霊友会幹部・役員・会員との内紛状態に入る。以降、久保継成及び久保を支持するグループによる霊友会本部、及び、関連施設への立ち入りが出来なくなる。

1996年濱口八重が後継会長に就任。久保継成は、久保継成を支持する第七支部の松本廣を中心とした独自の別グループを形成し、団体名称「Inner Trip REIYUKAI International」という国際団体として活動を開始。2000年5月18日・濱口八重会長死去により大形市太郎が会長に就任。

2003年 久保継成は、新団体「在家仏教こころの会」を設立し、以降、分派団体としての活動を行う。

2013年大形市太郎会長死去により末吉将嗣が会長に就任。

東京都港区麻布台1丁目7-8

真如苑東京本部

仏教(真言宗)系新宗教。自らの特色として「出家仏教の修行を基盤とする在家仏教教団」としている。真言宗から独立後、「まこと教団」と称していたが、管長・伊藤真乗が傷害容疑で逮捕・起訴されると、教団は大きな打撃を受け、1951年、真如苑に改名し、1953年、宗教法人として認証を受けた。

除隊後は、石川島飛行機製作所(株)勤務の傍ら、少年期に継承した伊藤家家伝の易学研鑽のために、大日本易占同志会で易を学び、易占鑑定により、人生相談に応じていた。知り合った真言行者の紹介で、雑司ヶ谷の天明教会(真言宗醍醐派修験道部)先達、浦野法海と縁を結んだ。真乗は、少年期に、天理教信者であった母の影響で天理教に親しみ、曹洞宗の禅寺の檀家総代であった父からは、禅と家伝の易学を学んだ。上京後は、浄土教、法華経、また浅野和三郎の心霊科学に触れ、1932年4月に友司と結婚してのちは、夫婦でキリスト教会にも通った。妻・友司の祖母は、霊能家であり、明治初年、横浜で狐憑き落としなどの除霊を行っていた。祖母の霊能を継承した伯母もまた2代目霊能家として活動していた。

1935年暮れ、真言密教を学ぼうちに、本尊として仏像を迎えたいと考えていた伊藤夫妻は、東京神楽坂の仏師宅で見つけた、不動明王像を自宅に迎えた。翌年2月4日、寒修行の最中、友司は入神状態となり、居合わせていた伯母から、祖母から続いた霊能を受け継いだと告げられ、友司は、3代目の霊能家となった。これを受けて真乗は、4日後の1936年2月8日、会社勤務を辞し、宗教活動に専念することになった。現在、真如苑では、この日をもって立教の日としている。

東京都渋谷区広尾2丁目22-15

伊藤忠商事株式会社東京本社

戦前は伊藤忠財閥の中核企業であった。伊藤忠財閥は、多数の紡織会社を傘下に持つ繊維財閥であったため、繊維部門の売り上げは群を抜いており、かつては世界最大の繊維商社であった。傘下に有力企業を多数抱えており、現在は祖業である繊維の他に、食料や生活資材、情報通信、保険、金融といった非資源分野全般を強みとしている。米国法人は商社中で最大手であり、中国市場では日本企業最大のネットワークを有する。東証第一部上場。銀行との融資・資本関係としては太平洋戦争以前から旧住友銀行と親密であったが、戦後住友系列より徐々に離脱し、旧第一銀行に接近。第一勧銀グループからの流れを受けて、現在はみずほグループに属している。単体従業員数が大手総合商社(伊藤忠商事、三菱商事、三井物産、住友商事、丸紅)で最少ながら、2015年度に最終利益で三菱商事を抜いて総合商社業界でトップになった。東京都港区北青山2丁目5-1

東宮御所

皇太子の居所である。現在の東宮御所は東京・赤坂の赤坂御用地にあり、皇太子徳仁親王、皇太子妃雅子、敬宮愛子内親王が住んでいる。東宮とは皇宮から見て東方に位置する宮であり、東は五行説で春に相当するため春宮（とうぐう／はるのみや）とも記され、易では長子を意味する震卦にあたることから、皇太子の住居とされた。さらに皇太子の家政機関として律令で春宮坊（とうぐうぼう）が定められていた。『職原抄述解』によると東宮は御座所を、春宮は官舎を呼んだもので、唐に皇太子付きの左春坊、右春坊という役所があったためそれに倣って春宮坊と呼んだものが、のちに混用されて皇太子自身を東宮とも春宮ともいうようになった。東京都港区元赤坂二丁目 1-8

迎賓館

迎賓館（げいひんかん）は、外国の国家元首や政府の長などの国賓を迎え入れたときに、宿泊等の接遇を行う施設。東京都港区元赤坂2丁目 1-1

時事通信社

戦前の国策通信社であった同盟通信社には終戦後 GHQ から圧力が加えられていた。GHQ が日本政府へ「日本政府のニュース統制の排除、各国の外電通信提供の自由及び政府の助成機関たる同盟通信社の特権剥奪」（昭和 21 年 9 月 24 日）の指令を出したのをきっかけとして、同盟通信社は 1945 年（昭和 20 年）11 月解散、共同通信社との 2 社に分割した。主に経済ニュースを民間企業向けに配信する部門と『世界週報』（同盟時代の『同盟世界週報』）をはじめとする出版業務を引き受けたのが時事通信社で、一般報道部門は共同通信社に移った。東京都中央区銀座 5 丁目 1 5



- 霊友会釈迦堂 2.39km - 宮中三殿 - 安蓮社 2.39km
- - 聖パウロ女子修道会 2.39km
- - 宗福寺 2.39km
- - 戒行寺 2.39km
- - 善国寺 2.39km

安蓮社

浄土宗（本尊）阿弥陀如来 もとは聖衆庵といい、明和五年、浄土宗の大本山増上寺の大僧正に仕える田中文周が、その信仰から、増上寺境内の空地に小さな堂を建て、江戸期の高僧、歆誉弁秀大僧正（増上寺第四十七世）の念持仏であった阿弥陀如来像を戴いて本尊として安置されたのがはじまりです。聖衆庵時代には、増上寺諸大徳によって由緒墓や諸廟塔などの供養勤行が主に修せられ、しだいに、増上寺の念仏道場として使われるようになりました。特殊法要として神風特別攻撃隊諸霊の追善法要が、毎年十月二十五日行われている。これは、第二次世界大戦において、いわゆる突撃隊として若い生命を散らしていった英霊二五二五霊の回向が行なわれている。施主は、当時かわりのあった人たちの有志からなる神風全数十人の方々で、特にこの法要を神風忌法要と呼んでいる。二五二五霊の名を掲げた霊名簿、位牌、平和観音像などが本堂脇壇に安置されている。

東京都港区芝公園3丁目1-13

聖パウロ女子修道会

宗教法人カトリック聖パウロ修道会として社会的コミュニケーションのために1934年から活動し、カトリック出版社「サンパウロ」を運営。また、1952年から株式会社組織に改組される1956年までの初期の文化放送の設立・運営に携わり、改組後も現在に至るまで筆頭株主（30%）となっている。

女子パウロ会は、1915年にイタリアのアルバで創立されたキリスト教カトリックの女子修道会。聖パウロ修道会とは姉妹会にあたる。日本では1948年の8月6日から活動。聖パウロ女子修道会はもう一つの公式名称。キリスト教関係書籍の出版・社会的コミュニケーションのために創立された。

東京都港区赤坂8丁目12-42

宗福寺

日照山と号し、元は前側の勝興寺の末（江戸砂子）であったが、今は越前永平寺の末である。慶長8年（1603）麴町清水谷に勝興寺二世岳室存積大和尚が創立した（慶安元年戊子九月朔日寂）。寛永11年江戸城拡張の為め現地に移転する。古い記録には徳川家康所持の、水戸頼房が寄付する処の弘法作の大黒天があったが、戦災に遭って焼失した。 東京都新宿区須賀町10-2

戒行寺

日蓮宗寺院の戒行寺は、妙典山と号します。文禄4年（1595）麴町に戒行庵として創建、後に宮重作兵衛重次（正保3年1646年歿）が開基となり戒行寺となりました。江戸期には身延山末頭5ヶ寺の一つとして繁栄、塔頭数ヶ院を擁していました。境内には長谷川平蔵の供養塔があります。

東京都新宿区須賀町9

善国寺

日蓮宗の寺院である。旧本山は大本山池上本門寺で鎮護山善国寺という。開基は徳川家康、開山は日愷上人と伝わる。正式には善國寺と称される。安土桃山時代の文禄4年（1595年）、池上本門寺第12代貫主である日愷上人により、馬喰町に創建される。たびたび火災に見舞われ、麴町を経て寛政5年（1793年）には現在地へ移転した。本尊の毘沙門天は江戸時代より「神楽坂の毘沙門さま」として信仰を集め、

芝正伝寺・浅草正法寺とともに江戸三毘沙門と呼ばれた。現在は新宿山ノ手七福神の一つに数えられている。池上法類神楽坂法縁頭寺。

東京都新宿区神楽坂5丁目5-36

備考

宗教団体は、どこも宮中三殿へ気を送り、気を引くしくみになっている。そして、いつもキリスト教会とつながる。

